

【様式1】 平成29年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	恵那市	学校名	恵那市立串原小・中学校			
校長名	西田 拓郎	対象学年	全校	人数	小学校35、中学校13人	
活動名	自然環境を学ぶ（小低・中学年） 地場産業を学ぶ（小中学年） 伝統文化伝承（小高学年・中学校） 串原の未来を考える（中学校）	時間数	小低・中：5 小高学年：15 中学校：20	時間	継続年数	小低・中：10 小高学年：20 中学校：20
題材	① 自然環境（山野・河川・動物・植物・その他） ② 歴史（出来事・史跡・先人・その他） ③ 文化（芸能・芸術・民話・風習・その他） ④ 地場産業（農業・水産業・伝統工芸・その他） ⑤ 地域との積極的な関わりをつくる活動等 ⑥ その他（表現活動）				[ほたる・ささゆり保護活動] [子ども歌舞伎・中山太鼓伝承] [こんにやく作り] [地域の有志の会との懇談、福祉施設への訪問、学校への招待] [ふるさと句集の発行]	
複数年継続するための工夫改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌舞伎や中山太鼓の練習では、地域の文化祭や東濃歌舞伎大会、岐阜県太鼓まつりの出場に向けて、ふるさとコミュニティと連携を図り、専門的な指導を受け、互いに成果と課題を話し合いながら自主的に高め合うことができる時間を位置付けるようにした。</li> <li>・小学校では、串原のよさを実感できる体験活動を中心に指導計画を構築し、中学校では、ふるさと串原の未来を考える時間を設定するなど、系統性をもって9年間のふるさと学習が成立できるようにした。</li> </ul>					
<p><b>1 ねらい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・串原小と串原中はふるさとコミュニティによる小中一貫ふるさと教育を展開してきた。各学年でふるさとと串原の自然環境や伝統文化、地場産業について学ぶことを通して、児童生徒がふるさと串原に誇りと愛着をもつことができるとともに、串原の良さを継承して、よりよい串原を作り出していこうとする心情を育てることができる。</li> </ul> <p><b>2 活動の概要</b></p> <p>課題：ふるさと串原の自然や文化を受け継いでいくために私たちはどのようなことができるだろうか。</p> <p>学習活動：各学年の発達段階に合わせた学習内容。（低学年は体験を重視した活動、中学年は体験活動と学習をまとめていく活動、高学年は学習内容を地域に発信する活動、中学生はふるさとをよりよくするための地域への提言を考える活動を計画している。）</p> <p>児童生徒の様子：体験活動やふるさと活性化に向けた取組を通して串原についての見識を深めている。</p> <p><b>3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと学習については、ふるさとコミュニティと、指導内容に応じて外部講師を誰に担当するかを検討し、担任と連携を図り指導している。</li> <li>・5月上旬には、ふるさと学習講師連絡会を開催し、1年間の中でふるさと学習の講師を担当していただいた方と各担任とでねらいや年間指導計画などの確認を行い、ねらいの共有化を図っている。</li> <li>・串原にあるささゆりの湯のリニューアルに伴い、ささゆりの湯を盛り上げるために住民の有志で結成した「チームささゆり」の代表者の方に串原のこれまでの歩みや現在串原が抱えている課題について話していただいた。その話をもとに、どうすれば串原を活性化していけるのかアイデアを出し合うところから、実現可能なアイデアなのかどうかまで、代表者の方と一緒に何度も練り直していった。</li> <li>・串原の住民や教師と共にふるさと句集を発行し、市立図書館や各振興事務所で供覧した。</li> </ul> <p><b>4 活動を通しての児童生徒の変容</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>串原の人の団結力がすごいと思った。団結力があるからこそ、温泉やゴルフ場ができたのが分かった。私たちの考えた工夫が採用され、くしはら温泉がもっと盛り上がるとうれしいです。（感想より）</p> </div> <p>中学校では、生徒会が動き出し、串原の活性化に向けたアイデアを集めることができるように、廊下にポストを設置し、常に「チームささゆり」に提言している。</p>						